

表 1

平成30年度 中部地方整備局入札監視委員会
第一部会 第3回定例会議審議概要

開催日及び場所	平成30年12月14日(金) 10時00分～12時00分 名古屋銀行協会会館 2階 201号室	
委員	部会長：永田和寿 (名古屋工業大学 大学院 工学研究科 准教授) 委員：大島嘉秋 (公認会計士) 小島淳 (名古屋大学 大学院 法学研究科 教授) 橋本修三 (弁護士) (委員は五十音順)	
審議対象期間	平成30年7月1日～平成30年9月30日	
抽出案件	総件数 8 件	審議案件は「表2」のとおり
【工事】		
一般競争入札方式 (W T O)	1 件	
一般競争入札方式 (拡 大)	3 件	
【建設コンサルタント業務等】		
一般競争入札方式	1 件	
簡易公募型 競争入札方式	1 件	
通常指名競争 簡易公募型 プロポーザル方式	1 件	
委員からの 意見・質問、 それに対する 回答等	意見・質問	回 答
	「表3」のとおり	「表3」のとおり
委員会による 意見の具申 又は勧告の内容	な し	

表 2

抽出事案一覧表

(期間:平成30年7月1日～平成30年9月30日)

【 工事 】

番号	工事名	工事種別	競争参加資格 を確認した者の数	入札参加者数	契約 締結日	契約の相手方	契約金額 (千円)	落札率 (%)	備考
1	(一般競争入札方式:政府調達に関する協定適用対象工事) H30名古屋第3国税総合庁舎建築工事	建築	15	12	H30.9.28	(株)熊谷組	1,317,600	94.20	営繕部(本官契約)
2	(一般競争入札方式:政府調達に関する協定適用対象工事以外のもの) 平成30年度 高山国道管内道路情報表示施設整備工事	通信設備	1	1	H30.8.9	名古屋電機工業(株)	87,804	98.28	高山国道事務所(分任官契約)
3	平成30年度 庄内川前田地区しゅんせつ工事	河川しゅんせつ	7	7	H30.7.2	中日建設(株)	186,624	90.19	庄内川河川事務所(分任官契約)
4	平成30年度 東三河出張所管内維持修繕工事	維持修繕	1	1	H30.9.7	岡田建設(株)	599,400	98.35	名古屋国道事務所(分任官契約)

【 建設コンサルタント業務等 】

番号	業務名	業種区分	競争参加資格 を確認した者の数	入札参加者数	契約 締結日	契約の相手方	契約金額 (千円)	落札率 (%)	備考
5	(一般競争入札方式) 平成30年度 東海環状(養老から県境)海津地区橋梁詳細設計業務	土木コン	6	6	H30.7.25	協和設計(株)	75,438	79.58	岐阜国道事務所(分任官契約)
6	(簡易公募型競争入札方式) 平成30年度 矢作川河床材料調査業務	地質調査	5	5	H30.9.27	(株)クレアリア	28,177	83.54	豊橋河川事務所(分任官契約)
7	(通常指名競争入札方式) H30中部運輸局静岡運輸支局改修ほか1件設計業務	建築コン	11	4	H30.7.10	(株)蒼設計	4,298	97.79	静岡営繕事務所(分任官契約)
8	(簡易公募型プロポーザル方式) 平成30年度 設楽ダム貯水池斜面地質解析業務	土木コン	1	1	H30.8.24	日本工営(株)	43,329	100.00	設楽ダム工事事務所(分任官契約)

表 3

委員からの意見・質問、それに対する回答等

(1) 報 告	
①工事に係る入札方式別発注工事一覧 ②建設コンサルタント業務等に係る入札方式別発注業務一覧 ③役務の提供等及び物品の製造等に係る入札方式別発注業務一覧 ④指名停止等の運用状況一覧表 ⑤談合情報等の対応状況 ⑥再度入札における一位不動状況 ⑦工事種別ごとの低入札価格調査制度調査対象工事の発生状況	
意見・質問	回 答
なし	

(2) 審 議		
会議の審議対象案件は、当番の委員が入札契約方式別に事務所毎の審議実績及び工事種別等を考慮したうえで抽出したものである。		
抽出案件名	意見・質問	回 答
1. H30名古屋第3国税 総合庁舎建築工事	施工実績の内容を見ると能力が高いと思われる者が参加資格要件を満たさず資格なしとされている。実績として認められる類似施設としては、事務室・会議室等の合計面積が過半を超える施設と設定されており、それに該当しないことが理由となるが、面積ではなく、割合で設定したのはなぜか。	建物用途の設定として、事務所、庁舎、研修施設、学校と複数求めているが、建築物は様々な形で建てられていることもあり、類似施設の設定をしている。 類似施設では、建物の過半に類似となる部屋が占めておれば、施工面での技術的特性が似たようなものとして、同等の建物の性質を持ったものと判断をしている。 全国的に使われている営繕関係のガイドラインでも、この類似施設の考え方が示されている。
2. 平成30年度 高山国 道管内道路情報表示 施設整備工事	1者応れだが、参加者を増やす努力はしたのか。	道路情報設備の発注において、平成27年度までは「道路情報設備の実績」を求めて1～2者の参加状況が続いていたため、平成29年度以降は「通信設備の実績」でも参加可能とした。 これにより、参加者が若干ではあるが増えている。 しかし今回は施工箇所が岐阜県と富山県との境であり、それぞれの関係機関との協議など、これまでとは状況が異なることから参加者が少なかったのではないかと推察している。
	参加資格要件を広げたということだが、どのような媒体・手段で周知しているのか。	通常どおり、入札公告の方法で行っている。 入札公告は事務所に掲示し、ホームページでも見られるようにしている。 なお、本件の資料をダウンロードした者は24者おり、多くの者が見てくれている。
3. 平成30年度 庄内川 前田地区しゅんせつ 工事	参加可能な者はどれだけいるのか。今回の参加者が7者であるが、多いのか少ないのか、どのような認識か。	同種工事の実績では136者を確認している。 庄内川のしゅんせつ工事は過年度にも発注しているが、概ね6～7者が参加している状況なので、適切な競争が行われたと考えている。
4. 平成30年度 東三河 出張所管内維持修繕 工事	道路の維持修繕工事は人気がなく、参加者を増やすのにかなり苦労していると聞けが、今回、金額を上げたのはどういう理由か。	前回18ヶ月の工期であったものを、今回は30ヶ月に設定したことにより金額が上がっている。

抽出案件名	意見・質問	回 答
	東三河出張所管内の維持修繕工事は、過去から同じ業者が受注しているのか。	東三河出張所が設置された平成26年度からこの業者が受注している。
	競争性を確保するような工夫はしているのか。	前回の発注工事より工期を長く設定することにより、受注者の体制や資機材が安定的に確保できるようにした。 また、同種工事の要件については、「交通規制を伴う道路維持工事」から「道路維持工事」として、交通規制を伴うという条件を外した。 経営の見通しを立てやすいよう工期を長く設定したり、資格要件を緩和したりという工夫は行っており、その結果、参加可能者数は増えている。
	参加者が少ないのは、工事内容、種類が多くあることが原因ではないか。そのことに関して受注者からヒアリングしたことがあれば教えてほしい。	ヒアリングは特に実施していないが、現道の維持修繕では交通事故・災害への対応があり、適時適切な判断をしなければならない。それには各路線の状況を熟知していることが必要であることから、受注は困難と判断しているのではないかと推察する。
	巡回・除草・塗装など、工事内容が多く、そのすべてを施工できる者が少ないということが原因になっているのではないかと思うので、この点も検討されてはどうか。	参加者がいない原因として、工種が多いことや魅力のない工事だと感じられていることもあると思われるが、今後については、単体だけではなく、複数の者で分担できるような方法や、参加確認型などを併用するなど取り組んでいきたい。
5. 平成30年度東海環状(養老から県境)海津地区橋梁詳細設計業務	技術提案で点差がついているが、高得点の者は何が良かったのか。	採石場の近くに橋脚を建てる工事であり、地盤が橋脚に与える影響への対応や、メンテナンス・点検に関する提案がしっかり記載されていた。 ほかにもコンプライアンスやセキュリティについても評価できる内容が記載されていた。
	技術提案の評価の手順を説明されたい。	技術の副所長をトップとした8人で構成する技術審査会において評価案を作成し、その後、事務所長をトップとした9人で構成する入札契約手続運営委員会において、その評価案を審議して確定している。
	個々の項目に対する配点表はあるのか。	それぞれの項目の内容に応じた配点表があり、それにより配点を行っている。
	手続きの日程について、「入札説明書等の交付期間」が長く設定しており、「申請書等の提出期間」が、交付期間の末日よりも前になっている。入札説明書等を期間内に交付を受けたとしても、参加できないということか。	入札説明書等の交付期間は、「入札書の受付期間」の開始前日として機械的に決めている。 申請書の提出期限に間に合わない場合には、参加できない。
6. 平成30年度 矢作川河床材料調査業務	矢作川の上流部は何県か。 企業の業務拠点の評価が、愛知県内としているが、岐阜県内も評価すべきではないか。	河川をはさんで愛知県と岐阜県になる。 今回の調査箇所がすべて愛知県内であったため、愛知県内を評価することとした。
	1者だけ応札額が高い理由はなにか。	見積もりを徴収して、その内容は公表している。 今回の調査が河川に入って行う業務であり、内水面漁協や地元との調整が必要であることにあわせて、当該企業の社内事情もあって高額になったのではないかと推察している。
	指名業者の選定を行う際の点数は何に基づいたものか。	参加希望者が提出した資料をもとに評価している。

抽出案件名	意見・質問	回 答
	結果として、点数の低い者が落札しているのは残念に感じる。せつかく点数評価したのであれば、それを反映させることはできないのか。	評価は希望者の中から指名対象者を選定するために行っているものであり、指名後は入札による価格競争である以上、価格によって落札者を決定することになる。今回は、最低価格者が複数いたため、くじ引きで落札者を決定している。
7. H30中部運輸局静岡運輸支局改修ほか1件設計業務	業務対象箇所が2カ所の設計業務であり、それぞれの場所がかなり離れているが、分割して発注しない事情があるのか。	それぞれ暖冷房衛生設備の改修に関する設計で類似していることと、業務量を増やして参加意欲を高めるために、今回はまとめて発注した。設計業務の場合、現地へ行く必要のある作業は少ないため、距離的な問題は無いと考えている。
	1回目の入札価格において、最高額と最低額とで5倍程度の差があるのはなぜか。	最高額の者に確認したところ、手持ちの業務量が多いため協力会社に見積もりを依頼したところ高額であったため、応札額も高くなったとのこと。また、建築関係は約9割が民間発注であり、現在、消費税の増税に向けた駆け込み需要が非常に多く、自治体でも小学校へのエアコン設置、LEDの設置など多くの学校で設備関係の業務が発注されている。これらのことから、入札した額でなければ、受注はできないとのことであった。
8. 平成30年度 設楽ダム貯水池斜面地質解析業務	参加が1者となっているのは、特殊な業務なのか。	ダムの湛水によって地滑りが生じるかどうかを解析して必要な対策を検討する専門的な業務である。
	要因をどのように考えているか。	ダム検証が終わり、各地のダムで地すべり業務が発注されている状況を確認しており、企業も技術者も限られている状態だと思われる。参加可能な者は27者確認しているが、ダムを新設したり堤体を高くしたりする時などに行う可能性のある業務で、将来的な市場としては小さく、実績を積むために参加しようという意欲は少ないのではないかと推察している。
	他の参加希望者が、この業務を行えるように資料などは公開しているのか。	ホームページで見るとは可能。また、事務所でも閲覧できるようにしている。